

幸せの歌



2月6日、北浜町にて撮影

J A 宗谷南

2018NEN
2GATUGOU
～SEASON61～



志美宇丹 農業地域協議会 設立総会

1月12日、歌登グリーンパークホテルで志美宇丹農業地域協議会設立総会が行われました。平成30年3月からは、実行組合及び振興会に代わり各地区の連絡協議会として全地区統一の農業地域協議会が設立され運営される事となります。

設立総会では、事務局より、振興会から農業地域協議会へ変更となった経緯や規約等の変更点を丁寧に説明されていました。

また、いくつか質問がなされ、これから始まる志美宇丹農業地域協議会をしっかりとしたものにするべく皆さん真剣に討議されていました。

総会終了後は、新年会が開催され、総会の時とは一変し和気藹々とした中で、これからの酪農や志美宇丹地区について大いに語り合っていました。



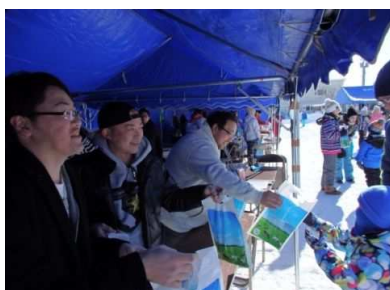
枝串流氷フェスタ2018

2月18日、「えさし流氷フェスタ2018」が、枝幸保育所前の特設会場で開催されました。

当日は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わい、乳製品の消費拡大活動で青年部・4Hクラブの部員が無料配布を行い、よつ葉乳業(株)のミルク紅茶といちごミルクを部員一人一人が丁寧に手渡しで配布し、すぐ終了しました。

また、子供達もいちごミルクを片手にみるきいちゃんとかれあい喜びの笑みで溢れていました。

来年も多くの方の参加を予定していますので、皆様方のご支援、ご協力をお願い致します。





歌登保育所で 食育活動

2月6日、歌登保育所で、青年部による食育紙芝居が行われました。
紙芝居は「みんなのミルクジャパン」という題名で、生乳生産を通じ食の大切さを伝えました。

紙芝居終了後は、みるきいちゃんより牛乳等のプレゼントがあり子供たちはとても喜んでくれたようで、改めて食育活動の大切さを実感しました。
これからも子供たちが牛乳をたくさん飲んでくれるよう活動を継続して行きます。

組合員資格確認のお願い

宗谷南農業協同組合

当ＪＡ定款規定により、組合員加入申込時の提出書類事項に変更があった場合や、組合員資格に変動等があった場合は、その旨を届けてもらうことになっています。

つきましては、組合員資格・氏名・住所・電話番号等の届出事項に変更・修正があった場合は、当ＪＡ本・支所窓口へお申し出いただきますようお願い致します。

【当組合の組合員資格】

1 正組合員資格

- (1) 5ヘクタール以上の土地を耕作する農業を営む個人であって、その住所又はその経営に係る土地若しくは施設がこの組合の地区内にあるもの
- (2) 1年のうち150日以上農業に従事する個人であって、その住所又は、その従事する農業に係る土地又は施設がこの組合の地区内にあるもの
- (3) 農業を営む法人（その常時使用する従業員の数が300人を超え、かつ、その資本の額又は出資の総額が3億円を超える法人を除く。）であって、その事務所又はその経営に係る土地がこの組合の地区内にあるもの

2 准組合員資格

- (1) この組合の地区内に住所を有する個人で、この組合の事業を利用することが適当と認められるもの
- (2) この組合から事業に係る物資の供給又は役務の提供を継続して受けているこの組合の地区内に勤務地を有する個人であって、引き続きこの組合の事業を利用することが適当であると認められるもの
- (3) この組合から事業に係る物資の供給又は役務の提供を継続して受けているこの組合の地区外に住所を有する個人であって、引き続きこの組合の事業を利用することが適当であると認められるもの
- (4) 農事組合法人等この組合の地区内に住所を有する者が主たる構成員となっている団体で協同組織のもとに当該構成員の共同の利益を増進することを目的とするものその他この組合又はこの組合の地区内に住所を有する者が主たる構成員又は出資者となっている団体であって、この組合の施設を利用することが適当であると認められるもの

※ 当組合の目的地区は、北海道枝幸郡枝幸町一円の区域とする。

小学校

新一年生ご入学おめでとうございます



音標 松下牧場
まつした かな
松下 葉奈ちゃん(父:昭光)

4月から音標小学校へ通う葉奈ちゃんは、保育所からのお友達と小学校へ通うのが楽しみで、音楽が大好きなのと、算数が得意なのでもっと勉強したいですと答えてくれました。
お父さんは、少し照れやな葉奈ちゃんが心配だけど、将来のためにも小学校からたくさん勉強してほしいようです。



左:真里菜ちゃん
右:しずくちゃん

歌登大奮 向井地牧場
むかいち まりな
向井地 真里奈ちゃん(父:善史)

真里奈ちゃんは元気いっぱいな女の子で、妹のしずくちゃんと仲良く外で遊んでいるところでお話を聞かせてもらいました。小学校に行くのが今から楽しみで、小学校で何を頑張りたいかを質問すると、「テストで100点取ること!」と元気に答えてくれました。



JA宗谷南 管理部 管理課
たかしま ぎん
高島 銀ちゃん(母:理恵)

4月から枝幸小学校へ通う銀ちゃんは、とにかく遊ぶ事が大好きですが、小学生になるので勉強も頑張っている様子。昨年弟が出来て最近弟の面倒をよくみるしっかりとしたおねえちゃんになってきています。



青年部 女性部 新年会



1月29日に、JA宗谷南青年部の新年交流会が行われました。
今年は盟友6名が集まり、西澤営農部長より近年の農業情勢などを話して頂きました。
新年会では、アグリサポートの牧場近況や農業情勢を語り合うなど大いに盛り上がりました。

2月6日、JA宗谷南女性部新年交流会が行われました。今年は部員20名が集まり、来賓に、宗谷農業改良普及センターの江田次長と高橋主査、宗谷南農協より寺前参事と西澤営農部長を迎え、江田次長の開会の挨拶で始まりました。

恒例のビンゴゲームでは、当たるまで中身が分からなく大いに盛り上がりました。

新年初の女性部活動として、親睦を深めました。



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的に伝えたい。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

昨年11月21日

に札幌市で開催した

「JA北海道大会実

践フォーラム」では、

JA北海道大会（平

成27年開催）の決議

事項の実践機運を高

めること等を目的に、

『新規担い手倍増』と『道民と食と農でつな

がるサポーター550万人づくりと准組合

員制度』をテーマに取り上げ、JAの実践事

例発表とパネルディスカッションにより、『担

い手受け入れへの地域合意形成』と『准組合

員との関係強化』の大切さなどを再認識す

る場となりました。



JAによる事例発表の様子↑



JA北海道信連



昨年11月に「食」と「農」をテーマに開催された「北海道アグリフードプロジェクト」に参加しました。

当日は、キャンペーンチラシの配布などでJAバンク北海道や「ドーン貯金キャンペーン」等のPRを行ったほか、口座開設を予約された方に「ちよりスブランケット」をプレゼントしました。今後も積極的にイベント等へ参加し、JAバンクのPRを通じて、サポーターづくりに取組んで参ります。



ホクレン

道産牛乳・乳製品の消費

拡大を目的に酪農家の拠出

金で継続的に実施している「ミルクランド北海道」事業の一環として、東京都武蔵野市吉祥寺の商業施設「ゴピス吉祥寺」に期間限定ショップ「MILKLAND HOKKAIDO↓TOKYO」(平成29年11月15日〜平成30年3月25日)を開催し、北海道酪農を広くPRしております。会場では北海道の酪農家が実際に訪れ、来場者と交流するイベントも毎月開催しています。



JA共済連北海道

2月5日から12日まで開催される「第69回さっぽろ雪まつり」7丁目会場にて、平成29年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクールの入賞作品65点を展示します。

JAとJA共済連北海道は、交通ルールの大切さや交通安全に対する願いが描かれた小・中学生の皆さんの作品を通して、交通事故防止の意識づくりにつながりたいと考えています。



昨年の会場の様子↑



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



J A北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション

テーマ 協同の力で実現する

新規担い手倍増に向けて

昨年11月に開催されたJ A北海道大会実践フォーラムの中で行われた、「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」と題したパネルディスカッションの内容をご紹介します。



小林 国之 氏

北海道大学 准教授

新規参入者支援の話に入りますが、宮下さんにJ Aからねべつがなぜこんなに多くの新規参入者を受け入れることができたのかご自分の経験も踏まえながらご意見を頂けますか。

宮下 道男 氏

栗山町農業振興公社
就農支援アドバイザー



計根別農協さんは平成27年から自ら出向く方針に転換して、新農業人フ エア等に参加されています。
やはり農業に関心がある方に農業や地域の良さを理解して頂くことが重要だと思います。けねべつではその結果、たった5年間で13戸の方が新規就農しています。

私どもの栗山町でも平成25年より新農業人フ エア等に参加しており、その結果、たった4年間で12戸の新規参入農家を取り込みました。出向く場合は、農業に関心がある方に対して、しっかり農村生活・農業を説明できる説明者の育成が大事です。

小林 准教授 イベントに出向いてもブースが閑散とするといった話もよく聞きます。正直計根別という地名は認知度も高くないと思いますが、何が農業に関心のある方を引き付けていると思われますか。



中瀬 満 氏

J A けねべつ 参事
事例発表者

担当している職員の熱意もあると思います。あとは、必ずしも新規就農だけでなく、例えば酪

農を体験したいという方には、一部助成策を講じながら一回来てみたらと言います。いきなり就農でなく、相談から始める。すると、新規参入を希望する方々の中で、計根別の取り組みが段々と広まって、結果として情報が多く集まるのかなと感じます。

小林 准教授 宮下さんは全道、全国で就農希望者の話を聞く機会が多いと思いますが、中瀬参事のお話を受けて、大事と思うポイントがありますか。

宮下 氏 やはり、住環境も含めた受入側の体制が整備されている地区には紹介しやすいです。就農を希望される方は安心してその地域へ行きたいと思えますし、それに加えて、親身になって説明できる方が説明員として来ていることが重要なのではないかと思います。

小林 准教授 齊藤さんにお聞きしたいのですが、受け入れ側として整備しなければいけない点について何かお考えはありますか。

齊藤 和弘 氏

北海道農協青年部協議会 顧問



1か月くらい前に、新しい方を従業員として迎えるに当たり、人材紹介サイトに連絡したところ、社会保障や休みの整備が

整っているとところは人気が高いと言われました。お給料が高いだけでなく、しっかりした保障がある安心感が重要だと思います。人を雇用することがどういうことなのか、経営者として学ばせて頂く経験になりました。

小林 准教授 近江さんは道外から多くの方を受け入れられておりますけれども、都市から人を呼んで活動をされる中で、今思うこと、伝えたいことがあれば、お聞かせ願えますか。

近江 正隆 氏

株式会社ノースプロダクション
代表取締役

東京では命の糧は一つも生み出されません。東京にいと、北海道の農村、農家さんたち



を自分事と考えるような実体験もなく、イメージが湧きません。そこでまずは家族のような繋がりを作るという意味で、ホームステイを行っております。

昨年十勝にホームステイで来られた大阪の高校生が、来年池田町の酪農家さんに就職する予定です。農業、農村、農家さんたちが持つ力には、何か人を揺り動かす大事なものがあって、都会の若者たちはそこに飢えています。そこに触れさせることで、将来的な担い手に繋がれると感じます。

小林准教授 齊藤さんもホームステイの受け入れを多く行われておりますが、やはり担い手倍増に繋がる一つのきっかけになるものとお考えですか。

齊藤顧問 先日、小林先生からお願いされました。大学生をホームステイに受け入れましたが、終わる頃には、はきはきと楽しく上にしていました。こういう体験も踏まえた上で、結果的に農業者になることだけが全てではないと思いますが、将来に繋がる取り組みであると僕は感じます。

小林准教授 農業経営者を増やすには、家族経営や経営体も大事ですが、それ以外の多様な農業の担い手の形を増やし、定着させる必要もあると思います。近江さんからその点について一言頂けますか。

近江代表 皆さんご存知のIT大手企業に勤める20〜30代の方が、今私が住む浦幌町に10〜20人来ていますが、彼らは10年後、20年後、AIやロボットが進化すると東京で仕事が少なくなり、もしかしたら自分の食べるものは自分で作るという根本的な考えに立ち戻るのではないかと考えています。そうすると、彼らは本業を持ちながら、副業として地域で仕事を探し始めます。既に大手企業は副業を認め始めており、この流れに、地方が戦略的にメスを入れていくことが、農村地域に人が住み続けていく一つのモデルづくりに繋がると考えております。

小林准教授 経営者だけでなく、色々な形で酪農や地域の産業に関わる仕組みも必要だと思います。これからの北海道農業、農村の担い手とは、計根別の地域から見るとどのような人たち、関係が想定されますか。

中瀬参事 私が思う担い手づくりの基本は、仲間をどういう風に作っていくかということかだと思います。農業に携わる方たちの仲間づくりが、最終的には担い手の確保対策に繋がっていくのではないかと考えております。

小林准教授 今のお話を受けて、地域の担い手をどう考え、またそれをどう増やしていけば良いのか、石田参事に伺いたいと思います。



石田 健一 氏

J A北海道中央会
参事

北海道では年間に600人程の方が新規就農しておりますが、そのうち、後継者・Uターン

の新規就農者の方は、自分の親の経営が有るので水田、畑作、酪農の経営体に入る方が8割を超えます。一方、外部からの新規参入者は、ここ3年の間100人を超え、増加していますが、農地などへの大規模な投資が難しく、投資額が500万円以下の方が3割

であり、経営形態で言うと、野菜が5割弱という状況です。これは中々大きな課題でしてこれから新規就農に促われず、経営者以外に農業を色々な形で支える担い手を増やすという方向性も必要かと思っています。





授精所だより ～子牛の寒さ対策について～



牛は比較的寒さに強い動物と言われていますが、哺乳子牛の場合は、皮下脂肪が少なく、体重が小さい割には体表面積が多く、第一胃があまり発達していないため体内からの発生熱が少ないため、親牛に比べて大きな寒冷ストレスを受け後の増体にも影響します。

防寒対策をしっかり行い、寒冷による発育のロスを減らしましょう！

防寒対策として…

- ①すきま風を防ぐ
- ②防寒ベストやネックウォーマーを利用して保温に努める
- ③敷料を多めにし、乾燥を保ち、保温効果を高める
- ④暖房器具（ハロゲンランプや遠赤ヒーター）で子牛を温める
- ⑤飲水を温水にする

※ 換気も忘れずに！

保温と同時に、換気も両立させましょう。

寒さ対策で牛舎を閉め切ったままにしていると、湿気やアンモニアガスがこもり、呼吸器病の原因となります。直接風が当たらないようにしながら、日中の暖かい時などに必ず定期的に換気を行いましょう。



各農場実施が難しい内容もあるかと思いますが、今回紹介した方法を参考として、厳しい冬を乗り切っていただければ幸いです。

平成29年度 農協職員資格認定試験合格者

・上級

管理部 管理課 可香谷 香



浦 高 森 滝 川 野 村
谷 本 川 口 合 澤 田

正 忠 直 直 隼
憲 等 幸 也 樹 希 太

編集委員

